

【平成 27 年度第 3 四半期】学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等について（提案 1 4～2 1）

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- ・経費負担を要するものは、原則として年間 1 0 回程度
※既に 3 件決定済（第 1～2 四半期開催分）
- ・経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計 3 件まで
- ・土日祝日開催のものは、四半期ごとに 2 件まで

	提案番号等	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
1	提案 1 4 【P. 3～4】	高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言－国民的合意形成へ向けた暫定保管	10 月 10 日（土） 13：00～18：00	日本学術会議 講堂	要	要
2	提案 1 5 【P. 5～6】	日本の戦略としての男女共同参画－『第 4 次男女共同参画基本計画』策定に向けて（仮題）	12 月 20 日（日） 13:00～17:00	日本学術会議 講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- ・各年度 3 2 回まで（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）
※既に 8 件決定済（第 1～2 四半期開催分）
- ・四半期ごとにおおむね 8 回（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）

	提案番号	テーマ	開催希望日時	主催委員会等名
1	提案 1 6 【P. 7～8】	求められる「脳とこころの科学」～教育・医療・モノづくり～	10 月 24 日（土） 14：00～17：30	心理学・教育学委員会脳と意識分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会
2	提案 1 7 【P. 9～10】	均等法は女性の敗北なのか、白鳥になったのか－男女平等の戦後史から展望する	10 月 25 日（日） 13:30～17:00	社会学委員会ジェンダー研究分科会

3	提案 1 8 【P. 11～12】	先端学術分野におけるシステムズ・アプローチの進展と課題	11 月 28 日(土) 13:30～18:00	総合工学委員会工学基盤における知の統合分科会
4	提案 1 9 【P. 13～14】	これからの社会に必要な能力とその力を育てる環境教育	11 月 29 日(日) 13:30～17:00	環境学委員会環境思想・環境教育分科会
5	提案 2 0 【P. 15～16】	つち・とち・いのち～土のことを語ろう	12 月 5 日(土) 13:00～16:30	農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会、農学委員会土壌科学分科会
6	提案 2 1 【P. 17～18】	大学教育における哲学・倫理学・宗教研究の役割（仮題）	12 月 12 日(土) 13:30～17:00	哲学委員会、同芸術と文化環境分科会、古典精神と未来社会分科会、命とところを考える分科会、哲学・倫理・宗教教育分科会、哲学分野の参照基準検討分科会

注：学術フォーラム（提案 1 4～1 5）を除く。

職員の人的支援はなし。

(提案 1 4)

日本学術会議主催学術フォーラム「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言―国民的合意形成へ向けた暫定保管」の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：平成 27 年 10 月 10 日（土）13：00～18：00

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

平成 27 年 4 月 28 日に公表された提言「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言―国民的合意形成へ向けた暫定保管」は、公表に至る前から大きな社会的関心を呼んだ。特に今回、平成 24 年に原子力委員会委員長への回答で、高レベル放射性廃棄物政策の抜本的見直しを提言したが、回答の内容をより具体的な政策へと先に進めることで、改めて、政府に改善を促す対応を試みた。高レベル放射性廃棄物の処分は、原発を存続するないし廃止するに関わらず、対処しなければならない問題であり、今回の政策提言をベースに多様な立場からの議論をシンポジウム形式で実施する。

5. 次 第：

13:00-13:30 第Ⅰ部 開催挨拶及び基調報告「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言」について

今田 高俊（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授、統計数理研究所客員教授）

13:30-14:50 第Ⅱ部 講演：高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言について（各 20 分）

鈴木達治郎（長崎大学核兵器廃絶研究センター副センター長・教授、元内閣府原子力委員会委員長代理）

吉岡 斉（日本学術会議連携会員、九州大学大学院比較社会文化研究院教授、原子力市民委員会座長）

小澤 典明（資源エネルギー庁原子力立地・核燃料サイクル産業課課長）
又は原子力発電環境整備機構関係者（交渉中）

寿楽 浩太（東京電機大学助教、日本学術会議事務局学術調査員）

14:50-15:10 休憩

15:10-17:40 第Ⅲ部 パネルディスカッション

コーディネーター：

柴田 徳思（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本アイソトープ協会専務理事）

パネラー：

鈴木達治郎（長崎大学核兵器廃絶研究センター副センター長・教授、元内閣府原子力委員会委員長代理）

吉岡 斉（日本学術会議連携会員、九州大学大学院比較社会文化研究院教授、原子力市民委員会座長）

小澤 典明（資源エネルギー庁原子力立地・核燃料サイクル産業課課長）
又は原子力発電環境整備機構関係者（交渉中）

寿楽 浩太（東京電機大学助教、日本学術会議事務局学術調査員）

長谷川公一（日本学術会議特任連携会員、東北大学大学院文学研究科教授）

千木良雅弘（日本学術会議特任連携会員、京都大学防災研究所教授）

テーマ：①暫定保管の方法と期間

②事業者の発生責任と将来世代への責任

③最終処分に向けた立地候補地とリスク評価

④合意形成へ向けた組織体制

17:40-18:00 第Ⅳ部 総括及び閉会挨拶

山地 憲治（日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)理事・研究所長）

(提案15)

日本学術会議主催学術フォーラム「日本の戦略としての男女共同参画－
『第4次男女共同参画基本計画』策定に向けて」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：平成27年12月20日（日）13:00～17:00

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

平成27年12月に閣議決定予定の「第4次男女共同参画基本計画」を念頭に置き、学術会議が議論、発した提言を中心に、我が国における男女共同参画の戦略性を議論する。

5. 次 第（予定）：

13:00-13:30 挨拶と問題提起

井野瀬久美恵（日本学術会議副会長・第一部会員、甲南大学文学部教授）

13:30-13:50 挨拶

大隈由加里（内閣府男女共同参画局推進課長）（調整中）

13:50-14:10 挨拶

国立研究開発法人科学技術振興機構関係者（調整中）

14:10-14:40 報告1 ポジティブ・アクションの実施・機能実態

戸部 博（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

14:40-15:10 報告2 求められる男女共同参画評価指標－ガイドラインの
必要性

神尾 陽子（日本学術会議第二部会員、独立行政法人国立精神神経医療研
究センター精神保健研究所児童・思春期精神保健研究部長）

15:10-15:30 休憩

15:30-16:00 報告3 日本は本当に遅れているのか？－ジェンダー・セン
シティブなデータの作成と公表

伊藤 公雄（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）

16:00-17:00 パネルディスカッション

コメント：

土井美和子（日本学術会議第三部会員、独立行政法人情報通信研究機構監事）

三成 美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学大学院環境科学系教授）

清水 誠（日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授）

塩見美喜子（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

(提案 16)

公開シンポジウム「求められる『脳とこころの科学』～教育・医療・モノづくり～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会脳と意識分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会
2. 共 催：日本脳科学関連学会連合
3. 後 援：日本医歯薬アカデミー
4. 日 時：平成 27 年 10 月 24 日（土）14：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

日本学術会議第一部「心理学・教育学委員会 脳と意識分科会」、第二部「基礎医学委員会 神経科学分科会」「臨床医学委員会 脳とこころ分科会」の 3 分科会合同で「求められる「脳とこころの科学」～教育・医療・モノづくり」と題するシンポジウムを企画した。

教育・医療に関しては、3 分科会の委員から演者を選択し、モノづくりに関しては、第三部の工学系から演者を推薦してもらい、社会的要請の強い脳とこころの科学に関する日本学術会議としてのメッセージを国民に発信することを目的とする。

8. 次 第：

14:00 開会のあいさつ

山脇 成人*（日本学術会議第二部会員、広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学教授）

14:05

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

14:10-15:10 教育と「脳とところ」

司会：荳阪 直行*（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授、日本学士院会員）

演者1：「健やかな脳の発生・発達と脂質」

大隅 典子*（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医学系研究科教授）

演者2：「ところの発達とワーキングメモリー」

荳阪満理子*（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

15:10-16:10 医療と「脳とところ」

司会：樋口 輝彦*（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター理事長・総長）

演者3：「脳科学からみたうつ病の診断と治療」

山脇 成人*（日本学術会議第二部会員、広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学教授）

演者4：「アルツハイマー病：超早期の診断と治療をめざして」

岩坪 威（東京大学大学院医学系研究科神経病理学教授）

休憩＜休憩 20 分＞

16:30-17:30 モノづくりと「脳とところ」

司会：岡部 繁男*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院医学系研究科神経細胞生物学分野教授）

演者5：「脳ダイナミクスとロボット」

川人 光男*（日本学術会議連携会員、株式会社国際電気通信基礎技術研究所脳情報通信総合研究所長・ATRフェロー）

演者6：「脳科学とビックデータからモノづくりへ」

岡田 真人（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 17)

公開シンポジウム「均等法は女性の敗北なのか、白鳥になったのか
—男女平等の戦後史から展望する」の開催について

1. 主催：日本学術会議 社会学委員会 ジェンダー研究分科会
2. 共催：フォーラム・「女性と労働 21」
3. 日 時：平成 27 年 10 月 25 日（日）13：30～17：00
4. 場所：日本学術会議講堂
5. 分科会：開催予定

6. 開催趣旨：

日本国憲法が、国民主権、平和と民主主義、男女平等をはじめとする基本的人権などを統治構造の根幹に据えてから 70 年近くの間、日本国憲法に続いて労働基準法が、男女同一賃金原則を定め、女性解放の不可欠な基盤として女性の経済的自立の実現を法政策の柱とした。昭和 60 年（1985 年）には男女雇用機会均等法が成立し、女性差別撤廃条約が批准される一方で、労働者派遣法も制定された。

均等法は勤労婦人福祉法の改正法として制定され、男性雇用者に対する女性雇用者の均等待遇は、募集・採用、配置・昇進においては雇用主の努力義務とされたにすぎなかった。女性たちが求めた雇用平等法に照らして、均等法は極めて控えめな法律であり、これを女性運動の敗北とする見解もある。他方で平成 9 年（1997 年）の改正強化により、均等法は「みにくいアヒルの子から白鳥になった」とも称された。その改正法が施行された平成 11 年（1999 年）には、男女共同参画社会基本法も制定されている。

ともかくも均等待遇される女性正社員は、長時間濃密な勤務とその成果を要求され、量的には少数にとどまってきた。大多数の女性は、労働基準法の女子保護規定が解消され、労働者派遣法が導入されて規制が緩和されるなかで、非正規・パート・派遣など恵まれない待遇で働いており、女性の貧困、子どもの貧困が憂慮される現状につながっている。平成 26 年（2014 年）に至って女性の活躍推進法案が準備されたことは、均等法体制をどのように変えるのだろうか。

本シンポジウムでは、ジェンダー研究者、法律家、雇用均等政策の担当者をスピーカーとして、以上のような経過を掘り下げ、到達点と課題を確認して今後の展望を得ることをめざす。

7. 次第

コーディネーター：

大沢 真理*（日本学術会議連携会員、東京大学社会科学研究所教授）

13:30～15:00

開会挨拶： 遠藤 薫*（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）

報告者：① 上野千鶴子*（日本学術会議連携会員、立命館大学先端総合学術研究科特別招聘教授）

② 中野 麻美（弁護士、フォーラム・「女性と労働 21」共同代表、派遣労働者ネットワーク理事長）

③ 小林 洋子（厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課長）

15:00～15:20 休憩

15:20～16:00 質疑応答

16:00～17:00 討論

コメンテーター：

村尾祐美子（東洋大学社会学部准教授）（交渉中）

松田 康子（情報産業労働組合連合会中央執行委員）交渉中

総括コメント：

小宮山洋子（小宮山洋子政策研究会、元厚生労働大臣）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催分科会委員）

(提案 18)

公開シンポジウム 「先端学術分野におけるシステムズ・アプローチの進展と課題」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科
2. 共 催：横断型基幹科学技術研究団体連合(予定)
3. 後 援：文部科学省(予定)
4. 日 時：平成 27 年 11 月 28 日 (土) 13：30～18：00
5. 場 所：日本学術会議 講堂 外 1 室
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

知の統合の重要性は日本学術会議でもしばしば指摘され、学術会議における学問論の主要なテーマとなってきた。しかし、その理念的な深まりはまだ不十分であり、それを推進する具体的な方策は依然として手探りの状態にある。一方、現在各先端分野で同時進行しつつあるシステムズ・アプローチの進展は、「システム」の概念を通じて知の統合が進展する可能性を示唆しており、知の統合を媒介する理念的な枠組みを与えることが強く期待される。

システムズ・アプローチの進展は幅広い分野で見られる。例えば、生物学の主流になりつつある「システム生物学」、新しい研究グループが創設された「システムナノ技術」、新学術領域「システムがん」などである。これらの近年の成果を受け、環境・エネルギー・医療など様々な社会的課題を総合的に解決するためには、それぞれのシステムを総合的かつ系統的に捉える SoS (System of Systems) の視点とそれを具体的に実現するためのプラットフォームの構築が重要となってきたが、この方向性は正に「知の統合」が目指してきているものである。

システム化の波やその役割は分野によって異なるし、分野における視方も異なるが、知の互換性という視点での共通点は多い。各分野でのシステム化による具体的な成果とその将来動向を持ち寄り、その共通の課題と分野相互の協調の可能性を探ることは、知の統合をモメントとした学術の再編成の視点から現時点で大きな意味がある。本シンポジウムはシステム化の進みつつある諸分野の研究者を一堂に集め、その成果と課題について共通の場で語っていただき、知の統合の推進役を担うシステム科学技術の将来の方向性を展望する。

8. 次 第：(登壇者名はすべて交渉予定の候補者)
- 13：30 開会の辞

- 原 辰次* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授)
- 13 : 35 主催者挨拶
渡辺美代子 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構執行役)
- 13 : 45 講演 「健康リスク制御のシステム科学技術」
山本 義春 (東京大学大学院教育学研究科教授)
- 14 : 30 各分野からの報告①生物学分野
黒田 真也 (東京大学大学院理学系研究科教授)
- 14 : 50 各分野からの報告②医学分野
宮野 悟 (東京大学医科学研究所教授) (交渉中)
- 15 : 10—15 : 20 (休憩)
- 15 : 20 各分野からの報告③社会学分野
今田 高俊 (日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授)
- 15 : 40 各分野からの報告④ロボット工学分野
下田 真吾 (国立研究開発法人理化学研究所研究員)
- 16 : 00 各分野からの報告⑤農学分野
二宮 正士 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
- 16 : 20 システム科学技術の海外動向
西村 秀和 (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)
- 16 : 40 システム科学研究所構想
北川源四郎* (日本学術会議第三部会員、情報・システム研究機構機構長)
- 17 : 00 総合討論
(司会) 木村 英紀* (日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院研究招聘教授)
(コメンテーター：予定)
安岡 善文 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)
藤田 政之 (東京工業大学大学院理工学研究科教授)
- 17 : 55 閉会の辞
吉村 忍* (日本学術会議連携会員、東京大学教授)
- 18 : 00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 19)

公開シンポジウム「これからの社会に必要な能力とその力を育てる環境教育」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会
2. 共 催： なし
3. 後 援： なし
4. 日 時： 平 27 年 11 月 29 日（日） 13：30～17：00
5. 場 所： 日本学術会議講堂
6. 分科会の開催： 開催予定
7. 開催趣旨：

東日本大震災は、日本社会のSustainabilityを一瞬にして奪った大震災・大津波、原発の複合広域大災害が発生し、日本人の生活に衝撃的な被害を与えた。自然災害のリスクのみならず、科学技術の進歩がもたらすリスクや新たな不確実性の増大を我々に知らしめ、人間社会と自然との関係性の再考をも迫る重大な出来事だった。日本社会の一人ひとりはどうのような問題を構造的に内包している社会に生きているのかという反省を促され、「自分や家族の生活はこのままでいいのか」という問い直しが年代、地域、職業を問わず広がった。

私たちは再び生活を本来の姿に回復させなければならない。これから私たちが生きるのは、道路、住居といったハード面での環境整備のみならず、人と自然の基本的関係、場所や時間の価値、ライフサイクルの繋がり、人間関係のありよう…等、環境を構成する要素の再吟味をし、生活に主体性・創造性を取り戻す「新しい環境の時代」といえるだろう。

「新しい環境の時代」が到来した今、求められるのは環境問題に対峙してそれを解決することに留まらず、それよりはるかにポジティブに、自分たちの暮らしを生き生き育むアメニティに富んだ環境を創ることに参画していける人、分野横断的な協働によって生活に生起する課題をトータルに捉え、全体の中での関係性をみながら問題解決をし、新しいライフスタイルを提案できる人を育てる教育である。それはどのようなものか、学際的な視野からその実現への道、方法、内容を論ずる。

8. 次 第：

13:30～13:40 開会挨拶

工藤由貴子*（日本学術会議連携会員、横浜国立大学教育人間科学部教授）

13:40～14:40 基調講演

①「表題未定」

進士五十八*（日本学術会議連携会員、東京農業大学名誉教授）

②「環境教育における学校教育と社会教育の統合と災害教育を統合した新しい環境教育の推進について」

関 礼子*（日本学術会議連携会員、立教大学社会学部教授）

14:40～15:00 休憩

15:00～16:30 総合討論（パネルディスカッション）：

パネリスト：

岡田真美子*（日本学術会議第一部会員、兵庫県立大学名誉教授）

小澤紀美子*（日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授）

岡部 明子*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

木下 勇*（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究科教授）

コーディネーター：

山田 育穂*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

16:30～17:00 総括討論

氷見山幸夫*（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 20)

国際土壌年 2015 記念シンポジウム「つち・とち・いのち～土のことを語ろう」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会、農学委員会土壌科学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本土壌肥料学会
3. 後 援：FAO 日本事務所、農林水産省、日本土壌協会、JA 全農、日本ペドロギー学会、農業環境技術研究所（予定）
4. 日 時：平成 27 年 12 月 5 日（土）13：00～16：30
5. 場 所：日本学術会議講堂、ロビー（パネル等展示）
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

国連が 2015 年（平成 27 年）を国際土壌年、毎年 12 月 5 日を世界土壌デーと定めたことを機会に、普段それを意識しない一般市民の方に、私たちの食料や環境を支えている土壌についてあらためて考える機会を提供する。

8. 次 第：

総合司会

南條 正巳*（日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科教授）

13:30 開会あいさつ：

間藤 徹*（日本学術会議連携会員、日本土壌肥料学会会長、京都大学大学院農学研究科教授、）

13:45 講演：自然保護活動と土壌のかかわりから、土壌の大切さを訴える。
C. W. ニコル（作家、ナチュラリスト）

14:15 講演：土壌の果たしている機能、世界と日本の土壌の現状（土地荒廃など）を解説。

小崎 隆*（日本学術会議特任連携会員、首都大学東京都市環境学部教授）

14:35 講演：生産者の視点で、土壌の大切さや最近感じる問題点
黒田 栄継（全国農協青年組織協議会会長）（交渉中）

14:55 講演：環境経済からみた土壌の価値を解説
植田 和弘（日本学術会議連携会員、京都大学大学院経済学研究科教授）

<休憩 30 分>

15:45 パネルディスカッション「土のことを語ろう」

・司会：松永和紀（サイエンスライター）

・パネリスト：

C. W. ニコル（作家、ナチュラリスト）

小崎 隆*（日本学術会議特任連携会員、首都大学東京都市環境学部教授）

黒田 栄継（全国農協青年組織協議会会長）（交渉中）

植田 和弘（日本学術会議連携会員、京都大学大学院経済学研究科教授）

榊田みどり（農業ジャーナリスト：消費者の立場から）

企業の社会貢献活動（CSR）などの立場から 1 名（検討中）

16:30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 2 1)

公開シンポジウム「大学教育における哲学・倫理学・宗教研究の役割」(仮題) の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会、同芸術と文化環境分科会、古典精神と未来社会分科会、命と心を考える分科会、哲学・倫理・宗教教育分科会、哲学分野の参照基準検討分科会

2. 共 催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合

3. 日 時：平成 27 年 12 月 12 日 (土) 13 : 30～17 : 00

4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 委員会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

本年度中の完成を予定している「哲学分野の参照基準」について趣旨と概要を説明し、広く意見を聴取する。また、高校公民「倫理」科の改革に向けての提言の公表を受けて、大学教育においても哲学系諸学の教育のあり方を見直し、その意義を高めるために踏み込んだ討議を行う。

7. 次 第：

司会：

戸田山和久* (日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授)

13:30～13:40

開会挨拶：

西村 清和* (日本学術会議第一部会員、國學院大学文学部教授)

13:40～16:50

報告

報告者：

藤原 聖子* (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科准教授)

河野 哲也* (日本学術会議特任連携会員、立教大学文学部教授)

小島 毅* (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)

ディスカッション

ディスカッサント：

交渉中 (学術会議外、哲学分野外から 2 名、哲学分野内から 1 名を招く予定)

16:50～17:00

閉会挨拶：

岡田真美子*（日本学術会議第一部会員、中村元記念館東洋思想文化研究所研究員）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催委員会等委員）

(提案 2 2)

公開シンポジウム「日本・フランスシンポジウム:スマートシティー」 の開催について

1. 主 催：日本学術会議、在日フランス大使館
2. 日 時：平成 27 年 9 月 15 日（火）～9 月 16 日（水）
3. 場 所：日本学術会議講堂外 5 室、1 階講堂前ホワイエ

4. 開催趣旨：

気候変動という地球規模での難問への対処の一環として本年 11 月 30 日～12 月 11 日までパリで開催される第 21 回国連気候変動枠組条約締約国会議において、世界全体の気温上昇を摂氏 2 度より下に抑え込むことを目的とし、すべての国をも対象とする新たな枠組みについて国際交渉がすすめられる。

都市部に関しては、二酸化炭素排出削減をめざす低炭素都市が、今や実装の段階となり、その一環として、都市の魅力をも高める「スマートシティー」が注目を集めている。「スマートシティー」は世界の多くの国の重要国家戦略と位置づけられているものの、一方では解決すべき課題がまだまだ残されている状況である。

パリ市はこのトピックスに特別な重きを置いているが、2020 年(平成 32 年)の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控えた東京都もまた「スマートシティー」への取り組みを重要視している。

「スマートシティー」という観点において世界をリードしつつある日本とフランス。その両国の政府機関として、日本学術会議と在日フランス大使館は、この度、「スマートシティー」に関する共同シンポジウムを開催する。

同シンポジウムは、インフラストラクチュア、交通システム、建物、そして ICT（情報コミュニケーション技術）によって可能になる新たなサービスといった、「スマートシティー」に関わる主要技術に関する問題を議論する場を提供する。こうした問題を解決することで、都市の競争力を高め、都市における人々の暮らしを魅力的なものに変えることが可能になる。今回のシンポジウムでは、4 つのトピックスに注目し、現状での問題点への対応、今後の展開とその効果にフォーカスが当てられる。

5. 次 第：

9 月 15 日（火）

<9:00～9:50>

開会挨拶及び基調講演

1. 東京都代表者（確認中）
2. Jean-Louis MISSIKA（パリ市副市長）
3. Thierry Dana（駐日フランス大使）
4. 大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大

学学長、東京大学名誉教授)

<9:50~12:40>

セッション1：インフラストラクチュア

司 会：フランス（確認中）

1. 日本：日本都市計画学会からの代表者（確認中）

演題：Urban renewal project by public-private partnership, area management（官民パートナーシップによる都市再生計画と地域マネジメント）

2. フランス：Euromediterranee プロジェクトからの代表者（確認中）

演題：（確認中）

3. 日本：民間企業（土地開発関連）からの代表者（確認中）

演題：Renewal of Infrastructure in City center of Tokyo（東京都心のインフラ再生（大手町、丸の内、及び有楽町））

4. フランス：民間企業（スマート・グリッド関連もしくは多国籍総合環境サービス会社等）からの代表者（確認中）

演題：（確認中）

5. 日本：民間企業（エネルギー関連）からの代表者（確認中）

演題：Energy utilization in urban district – Introduction of project such as “Tamachi Project”（都心でのエネルギー利用 – “田町プロジェクト” 等）

6. フランス：Laurent Herault

（CEA : Le Commissariat à l'énergie atomique フランス原子力庁、smart meters and privacy data management）

演題：（確認中）

7. パネルディスカッション（30 分）

<14:10~17:20>

セッション2：交通システム

司 会：日本（確認中）

1. 日本：大学所属の研究者（確認中）

演題：Utilization of ICT in transportation policy（交通計画・政策における情報サービスの利用）

2. フランス：Jean-Luc Ygnace

（IFSTTAR – LICIT: Institut français des sciences et technologies des transports, de l'aménagement et des réseaux- Laboratoire d'Ingénierie Circulation Transports フランス運輸・整備・ネットワーク科学技術研究所 交通工学研究室）

演題：ITS and cooperative systems overview: new trends for ITS as a tool towards services to mobility（ITS (Intelligent Transport System: 高度道路交通シス

テム)と関連システムの概要：運輸サービス向けのツールとしての ITS の新しいトレンド)

3. 日本：民間企業（自動車関連）からの代表者（確認中）
演題：Automatic driving（自動運転）もしくは Driving safety issues（安全運転（支援システム）問題）
4. フランス：Florence Sèdes
(IRIT: Institut de Recherche en Informatique de Toulouse トゥールーズ情報学研究所)
演題：Smart transportation（スマート交通システム）
5. 日本：民間企業（鉄道関連）からの代表者（確認中）
演題：Suburban Railway system (Transit Oriented Development) (市街地の鉄道システム（公共交通指向型開発）)
6. フランス：Monssef Drissi-Habit
(IFSTTAR: Institut français des sciences et technologies des transports, de l'aménagement et des réseaux, de l'aménagement et des réseaux フランス運輸・整備・ネットワーク科学技術研究所)、もしくはフランスの航空・郵便事業体
演題：Smart & innovative composite materials with embedded sensors for structural applications – Influence of nanomaterials & nanotechnologies（構造物への応用のための埋め込み型センサーを兼ね備えたスマートかつ革新的な複合材料 - ナノマテリアルとナノテクノロジーの影響）
7. パネルディスカッション（30分）

9月15日（火）

<9:00~11:50>

セッション3：建物

司会：フランス（確認中）

1. 日本：省エネルギー建築の専門家（確認中）
演題：Energy Saving in Building, CASBEE（建物における省エネ - CASBEE（建築物総合環境性能評価システム））
2. フランス：M. Hans
(CSTB : Centre scientifique et technique du bâtiment フランス建物科学技術センター)
演題：R&D and certifications（研究開発と許可証）
3. 日本：政府関係者（確認中）
演題：Governmental policy in smart buildings（スマートビルディングにおける政府の政策）
4. フランス：EFFICACITY, l'institut de r&d pour la transition

énergétique de la ville (フランス都市エネルギー転換
研究所) からの代表者

演題 : Buildings in an efficient city (効率のよい街におけ
る建物)

5. 日本 : 民間企業からの代表者 (確認中)

演題 : Model Project (住宅に関するモデルプロジェク
ト)

6. フランス : Monssef Drissi-Habiti

(IFSTTAR: Institut français des sciences et
technologies des transports, de l'aménagement et
des réseaux フランス運輸・整備・ネットワーク
科学技術研究所)

演題 : Developing technologies (技術開発)

7. パネルディスカッション (30 分)

<13:20~16:50>

セッション4 : 情報サービス

司 会 : 日本 (確認中)

1. 日本 : 総務省からの代表者 (確認中)

演題 : (確認中)

2. フランス : Anne Charreyron-Perchet

(MEDDE : Ministère de l'Écologie, du Développement
durable et de l'Énergie フランスエコロジー・持続可
能開発・エネルギー省)

演題 : (確認中)

3. 日本 : 民間企業 (IT 関連) からの代表者 (確認中)

演題 : (確認中)

4. フランス : 民間企業 (建設関連) からの代表者 (確認中)

演題 : (確認中)

5. 日本 : 情報通信研究機構または民間企業 (IT 関連) からの代表者
(確認中)

演題 : (確認中)

6. フランス : INRIA (Institut National de Recherche en Informatique
et en Automatique、フランス国立情報学自動制御研
究所) からの代表者 (確認中)

演題 : Democratization of urban information and citizen
engagement (都市情報の民主化と民間人の関与)

7. 日本 : デバイス関係の大学関係者 (確認中)

演題 : (確認中)

8. フランス : 電気事業者からの代表者 (確認中)

演題 : (確認中)

9. パネルディスカッション (30 分)

<16:50～17:50>

全体でのパネルディスカッション：

司 会：大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

<17:50～18:00>

閉会挨拶

1. **Jacques Maleval**（在日フランス大使館科学技術部科学技術担当参事官）
2. 花木 啓祐（日本学術会議副会長・第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

(提案 2 3)

「平成 27 年度女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会、科学者委員会男女共同参画分科会
2. 共 催：独立行政法人国立女性教育会館
3. 後 援：男女共同参画学協会連絡会
4. 日 程：平成 27 年 8 月 6 日（木）～8 月 8 日（土）
5. 場 所：独立行政法人国立女性教育会館
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

女子中高生が「科学技術にふれる」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながる」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」ための機会として「女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い」を開催する。

このプログラムは、2 泊 3 日の合宿研修を通じて、女子中高生と科学研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものである。理系の分野も様々であり、すでに理系の道を進んでいる女子中高生も、これから夢を追い求める人も、不安を抱える人も、より深くより広く自分たちの視野を広げる機会を提供する。

また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定しており、子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスができるように理系進路選択についての理解を深めることを目指す。

8. 次 第：

<第 1 日 8 月 6 日（木）>

13:00～13:30 開会宣言

柏原 賢二（実行委員長（日本数学会）、東京大学大学院総合文化研究科助教）

あいさつ

内海 房子（国立女性教育会館理事長）

嶋田 透*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

オリエンテーション

古澤 亜紀（茨城県立水戸農業高等学校教諭）

13:30～14:00 サイエンスアンバサダーⅠ「自分の将来について考えよう」

14:15～15:45 キャリア講演

木村 知代（（株）ちふれ化粧品総合研究所研究員）

福田 陽子（東京大学大学院理学系研究科博士課程第54次南極越冬隊員 オーロラ研究者）

16:00～17:30 学生企画「サイエンスバトル!？」【女子中高生】

16:00～17:30 夏の学校を知る【保護者】【教員】

19:15～20:45 学生企画「i future～理系人生を体験しよう」
【女子中高生】

19:15～20:45 サイエンスカフェⅠ「日本学術会議、学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」【保護者】【教員】

松尾由賀利*（日本学術会議第三部会員、法政大学教授）

21:00～22:00 天体観望会【共通/希望者】

21:00～22:00 国際交流「英語相談所」【女子中高生/希望者】

<第2日 8月7日（金）>

9:00～11:30 サイエンスアドベンチャーⅠ【女子中高生】

9:00～11:30 実験・実習の参加・見学【保護者】【教員】

12:45～13:00 集合写真の撮影

13:00～15:50 サイエンスアドベンチャーⅡ【女子中高生】

（時間調整中）サイエンスカフェⅡ「中学、高校、大学の教員の連携」（テーマ未定）【保護者】【教員】

（時間調整中）サイエンスカフェⅢ「企業における女性研究者の活躍（仮題）」
【保護者】【教員】

渡辺美代子*（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構執行役）

16:00～17:30 学生企画「Gate Way」【女子中高生】

（時間調整中）サイエンスカフェⅣ「ポスター展示・キャリア相談」
【保護者】【教員】

18:00～19:00 交流会

19:15～20:45 学生企画「キャリア・プランニング」【女子中高生】

19:15～20:45 サイエンスカフェⅤ「保護者・教員と留学生との国際交流」【保護者】【教員】

21:00～22:00 研究者・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会
【共通/希望者】

21:00～22:00 国際交流「もっと話そう英語」【女子中高生/希望者】

<第3日 8月8日（土）>

9:00～11:00 一体感型実験【女子中高生】

9:00～10:00 夏の学校を振り返る【保護者】

9:00～10:00 夏の学校を振り返る【教員】
10:00～11:00 一体感型実験の参加・見学【保護者】【教員】
11:15～12:00 学生企画「夏学振り返りと表彰式」
12:00～12:45 サイエンスアンバサダー任命式・閉校式
柏原 賢二 (実行委員長 (日本数学会)、東京大学大学院総合
文化研究科助教)

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 24)

公開シンポジウム「新しい植物育種技術について考える」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同 遺伝子組換え作物分科会
2. 共 催：日本植物細胞分子生物学会
3. 後 援：独立行政法人日本学術振興会（科学研究費 15HP0028）
4. 日 時：平成 27 年 8 月 10 日（月） 13：30～16：30
5. 場 所：東京大学弥生講堂一条ホール
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

平成 26 年に日本学術会議から表出した「植物における新育種技術(NPBT: New Plant Breeding Techniques)の現状と課題」に記載したように、NPBT は社会に大きな影響を与えると想定され、市民に対する周知が必要と考えられる一方、NPBT は多様な技術からなることから、その技術的課題の説明や、社会的受容に対する取組みは不足している。今回、植物細胞分子生物学会において、同学会と共同主催により植物のバイオテクノロジーに関する公開シンポジウムを開催し、NPBT の概要を紹介するとともに、遺伝子組換え作物における規制についても理解を深め、NPBT のよりよい社会的受容に向けて市民とともに考える機会を設ける。

8. 次 第：

13：30 植物育種って何だろう？

江面 浩（筑波大学大学院生命環境科学研究科教授）

13：50 新植物育種技術（NPBT）の概要：学術会議報告から

佐藤 文彦*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院生命科学研究科教授）

14：10 NPBT を使ってみた

村中 俊哉（大阪大学大学院工学研究科教授）

14：30 遺伝子組換え植物の日本における規制

田部井 豊（国立研究開発法人農業生物資源研究所室長）

14：50 遺伝子組換え植物の米国における規制

佐藤 卓（米国大使館農務部農務スペシャリスト）

15：10 消費者から見た NPBT

蒲生 恵美（公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・
相談員協会食生活特別委員会副委員長）

15：40 パネルディスカッション

（司会）小松 晃（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構作物
研究所主任研究員）

16：20 総括

大杉 立*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学
研究科教授）

9．関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 25)

市民公開講座「見ること、聞くことの大切さー認知症の予防のためにー」
の開催について

1. 主 催 : 日本学術会議 臨床医学委員会 感覚器分科会
2. 共 催 : なし
3. 後 援 : 公益財団法人日本眼科学会、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会
4. 日 時 : 平成 27 年 8 月 12 日 (水) 14 : 00～16 : 00
5. 場 所 : 日本学術会議講堂
6. 分科会の開催 : 開催予定

7. 開催趣旨 :

人間が外部から得る情報のほとんどは耳と目を介してであることから、これら感覚器は人体の非常に重要な器官といえる。しかしながら、一般にその重要性が十分に認識されているとはいえない。臨床医学委員会感覚器分科会では、感覚器の重要性と正しい知識を啓発し、国民の健康の増進に寄与するために、毎年、市民公開講座を開催している。我が国は世界にも類をみない超高齢社会を迎えているが、耳や目が年をとっても健康であることは、高齢者の quality of life の向上に欠かせない。それは単に外部からの情報が得られやすいというだけでなく、近年になり、見ること、聞くこと、しゃべることが高齢者の認知機能の低下を防止することが科学的に証明されてきた。今回の市民公開講座では、この認知症との関連を通して、見ること、聞くことの大切さを啓発したいと考えている。

8. 次 第 :

14 : 00～14 : 10 開会の挨拶

石橋 達朗* (日本学術会議連携会員、九州大学病院長)

14 : 10～14 : 50 「聴覚・コミュニケーションと認知症～聞くこと、
しゃべることが認知機能低下を防ぐ～」

座長 : 八木 聡明* (日本学術会議連携会員、人間環境大学学長)

演者 : 伊藤 壽一* (日本学術会議連携会員、滋賀県立成人病センター研究所長)

14 : 50～15 : 00 休 憩

15 : 00～15 : 40 「視覚と認知症～白内障手術が認知機能低下を防ぐ～」

座長：石橋 達朗*（日本学術会議連携会員、九州大学病院長）

演者：緒方奈保子（奈良県立医科大学眼科学教室教授）

15：40～15：50 質疑応答

15：50～16：00 閉会の挨拶

伊藤 壽一*（日本学術会議連携会員、滋賀県立成人病センター研究所長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 26)

公開ワークショップ「国立自然史博物館の設立を推進する」開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会、自然史財の保護と活用分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物分科会

2. 共 催：日本進化学会

3. 後 援：

4. 日 時：平成 27 年 8 月 21 日（金）14:00～16:00

5. 場 所：中央大学後楽園キャンパス

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

今日、我々の暮らしをこれまで支えてきた科学技術の将来に赤信号がとまり、自然資源の枯渇は目前に迫り、人類の持続可能性を保証してきた生物多様性が失われつつある。このような現状から脱却するには、30 億年の歴史を持つ生物進化を規範として我々の暮らしを立て直す必要がある。生物進化を証拠立てるのは自然環境から収集した自然史標本であり、それを研究する学問が自然史科学である。自然史標本を時間軸で比較すれば生物多様性の変遷が明らかになる。自然史標本を研究することで、人類に利用可能な自然資源を見つけることができるし、進化の結果である生物の形態と機能の関係を科学技術に応用できる。ところが、自然史標本を収集・保全して研究する施設が貧弱なため、日本の自然史科学は世界に大きく後れをとっている。科学技術の将来に光明を見だし、自然史資源を探索し、日本と世界の持続可能性を保証するためには、自然史標本を収集・保全して研究する自然史研究の拠点、すなわち「国立自然史博物館」が必須であることを論議する。

8. 次 第：

14：00～14：10 開催挨拶と趣旨説明

浅島 誠*（日本学術会議連携会員、独立行政法人日本学術振興会理事、
東京大学名誉教授）

14：10～14：30 「国立自然史博物館」設立へ向けての日本学術会議の取り組み
岸本 健雄*（日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学サイエンス&エ
デュケーションセンター客員教授、東京工業大学名誉教授）

14：30～14：50 生物多様性の変遷を明らかにする「国立自然史博物館」
久保田康裕（琉球大学理学部生物系教授）

14：50～15：10 バイオミメティクスのメッカとしての「国立自然史博物館」
下村 政嗣（千歳学技術大学教授）

15：10～15：30 生物資源の宝庫と「国立自然史博物館」
佐藤 矩行*（日本学術会議連携会員、沖縄科学技術大学院大学教授）

15：30～16：00 総合討論

司会：

馬渡 駿介*（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）

16：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 27)

公開シンポジウム「第 11 回獣医学教育改革シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会
2. 共 催：第 158 回日本獣医学会学術集会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 27 年 9 月 9 日（水） 9：00～12：00
5. 場 所：北里大学獣医学部十和田キャンパス
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

我が国の高等教育においては、「教育の質保証」を中心的な課題として、大学教育改革の取り組みが進められているが、このような流れの中、獣医学教育の質保証をテーマとして、文部科学省の下に「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」（以下「協力者会議」という。）が設置され、平成 23 年 3 月に報告書がとりまとめられたところ。報告書では「現場の最前線で活躍できる高度な実践力を有する獣医師の養成」と「国際水準の獣医学教育の実現」を目的に掲げ、その達成に向けて、今後の改革の具体的事項と主な事項の工程表が示されている。全国大学獣医学関係代表者協議会は獣医学モデルコアカリキュラム、共用試験、参加型臨床実習、第三者評価など協力者会議・報告書が示した「改革工程」に沿った準備を進め、平成 28 年度からの共用試験と参加型臨床実習の本格実施に向けての検証と実施体制を整えているところ。

上述の観点から、本シンポジウムを現在獣医学教育の質的向上とその推進を目指して実施されている「参加型臨床実習」の課題並びに「国際水準の獣医学教育」の課題等について以下の演題にて公表し、今後の新たな獣医学教育の方向と対応策を明確にする機会としたい。本シンポジウムによる討議結果は、我が国獣医科大学と学外諸団体及び自治体の獣医療機関との連携教育の促進、及び日本学術会議や日本獣医学会における今後の動物医療や食の安全に関わる学術面からの現状分析および新たな政策提起など、我が国獣医学教育の改善促進および国民への情報提供の機会ともなる。日本学術会議が共催するシンポジウムとして意義あるものと考えられる。

8. 次 第：

総合座長：

高井 伸二*（日本学術会議連携会員、第 158 回学術集会大会長、北里大学
獣医学部獣医学科教授）

シンポジウムテーマ：「獣医学教育の改善の取り組み：参加型臨床実習」

(1) はじめに

尾崎 博* (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

(2) キーノートスピーチ：獣医学教育の改善の取り組み

辻 直人 (文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐・技術者育成振興専門官)

(3) パート1：「参加型臨床実習をどうするか 目前にせまった参加型臨床実習の内容、実施方法を議論する」

座長

稲葉 睦 (北海道大学獣医学研究科教授)

北川 均 (岐阜大学応用生物科学部教授)

1. 参加型臨床実習の総論：

北川 均 (岐阜大学応用生物科学部教授)

「コアカリキュラムとしての参加型臨床実習」

2. 伴侶動物の参加型臨床実習 私立大学編：

亘 敏広 (日本大学生物資源科学部教授)

私立大学の参加型臨床実習の実施方針、実際の実施計画

3. 伴侶動物の参加型臨床実習 国立大学編：

滝口 満喜 (北海道大学大学院獣医学研究科教授)

「国際認証を目指す伴侶動物の参加型臨床実習」

4. 産業動物の参加型臨床実習 国立大学編：

猪熊 壽 (帯広畜産大学臨床獣医学研究部門教授)

「国際認証を目指す産業動物の参加型臨床実習」

5. 産業動物の参加型臨床実習 私立大学編：

佐藤礼一郎 (麻布大学獣医学部教授)

「入院患者畜を利用した参加型臨床実習」

6. 産業動物の受入側 (NOSAI) の意見：

酒井 淳一 (NOSAI 山形参事)

「フィールド (NOSAI) と大学の継続的な連携に必要な責任体制とは…」

7. 全体のまとめ

稲葉 睦 (北海道大学大学院獣医学研究科長・獣医学部長・教授)

(4) パート2 : 「EU における獣医学教育認証」

座長

倉園 久生 (帯広畜産大学副学長)

講演者 :

EAEVE 会長

Ana Bravo (University of Santiago de Compostela (サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学) 獣医学部教授)

(5) 総合討論、まとめ

高井 伸二* (日本学術会議連携会員、第 158 回学術集会大会長、北里大学獣医学部教授)

尾崎 博* (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

9. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 28)

公開シンポジウム「歯科基礎医学の多様性と新たなパラダイムシフトの展開」の開催について

1. 主 催 : 日本学術会議 歯学委員会 基礎系歯学分科会
2. 共 催 : 歯科基礎医学会
3. 後 援 : 日本医歯薬アカデミー
4. 日 時 : 平成 27 年 9 月 13 日 (日) 9:00~11:00
5. 場 所 : 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
(新潟県新潟市中央区万代島 6-1)
6. 分科会の開催 : 開催予定
7. 開催趣旨 :

我が国の歯科大学・歯学部では、基礎系分野でも歯学部出身教員の配置が多数みられ、基礎医学・歯学に立脚した研究制度が普及している。その結果、我が国では歯学研究のできる歯科医師(医学における Physician Scientist)が多数育成されてきた。さらに、我が国の歯学界は、歯学以外の先端的ライフサイエンス分野で活躍している研究者も輩出するとともに、歯学以外から優れた研究者の参入も加えて、多様性のある歯科基礎医学研究を展開するに至っている。これは我が国の歯科基礎医学の特徴といえる。今後、我が国の歯科基礎医学を国際的に発展させるためには、このような我が国の特性をさらに活かして優れた歯科基礎医学研究者を育成し、新たなパラダイムシフトを展開させる必要がある。

本シンポジウムでは、歯学部出身で他学部の基礎研究で活躍している研究者、歯学部以外の出身者で歯学部で活躍している研究者、歯学部出身で外国での研究経験が豊富な方などを中心として多様なシンポジストの発表を行い、今後の歯科基礎医学の展開を考えることを目的とする。

8. 次 第 :

座長 :

東 みゆき* (日本学術会第二部会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子免疫学分野教授)

高田 隆* (日本学術会連携会員、歯科基礎医学会常任理事、広島大学理事・副学長、大学院医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理病態学教授) (予定)

シンポジスト

- 1) 9:05-9:20 イン트로ダクション：日本学術会議の立場から
山口 朗*（日本学術会議第二部会員、東京歯科大学口腔科学研究センター教授）
- 2) 9:20-9:35 イン트로ダクション：歯科基礎医学会の立場から
平田 雅人*（日本学術会議連携会員、歯科基礎医学会常任理事、九州大学大学院歯学研究院教授）
- 3) 9:35-9:50 歯学部出身で他学部で活躍中の研究者の立場から
一條 秀憲（日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授）
- 4) 9:50-10:05 歯学部出身で他学部で活躍中の研究者の立場から
茂呂 和世（国立研究開発法人理化学研究所免疫細胞システム研究グループ上級研究員、横浜市立大学生命医科学研究科免疫生物学研究室客員准教授）
- 5) 10:05-10:20 歯学部以外の出身で歯学部で活躍中の研究者の立場から
中島 友紀（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学分野准教授）
- 6) 10:20-10:35 歯学部出身で外国での研究生活を経て我が国の歯学部で活躍中の研究者の立場から
大峯 淳（新潟大学医歯学総合研究科口腔生命科学専攻摂食環境制御学准教授）
- 7) 10:35-10:55 総合討論
- 6) 11:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 29)

公開シンポジウム「セクシュアリティとジェンダー性的指向の権利保障をめぐって」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 法学委員会 「社会と教育における LGBTI の権利保障」分科会、日本ジェンダー学会
2. 共 催：奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター
3. 日 時：平成 27 年 9 月 19 日（土）13：30～17：30
4. 場 所：奈良女子大学
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

性的指向を人権の一つと認め、親密な人間関係の選択肢を保障するという動きは、1970 年代以降のジェンダー平等の一環である。同性愛行為に対する処罰規定を撤廃し、同性カップルの生活共同体（登録パートナーシップ）を保障し、婚姻の性中立化を容認するという流れは、まさしくこうした動向を象徴するものと言えよう。平成 12 年（2000 年）、世界ではじめてオランダが婚姻平等を定めて以降、ヨーロッパでは婚姻の性中立化が急速に進みはじめた。世論が二分されてきたアメリカでも、平成 25 年（2013 年）に合衆国連邦最高裁で婚姻を異性婚に限定する結婚防衛法を違憲とする判決が出されて以降、いまや 30 州以上で婚姻の性中立化が進んでいる（2015 年のイリノイ州が 36 番目の婚姻平等容認州）。平成 27 年（2015 年）には、ベトナムでも同性間の婚姻禁止が解除された。

しかし、婚姻の性中立化の承認をめぐって国際社会の合意は容易ではない。国連人権理事会で性的指向にもとづく差別を禁じる決議（2011/2014 年）がなされるなど、国際社会は同性愛者の権利保障に向けて動いているが、いまなお国連総会での決議には至っていない。イスラーム諸国の反対が強いからである。ロシアも同性愛宣伝禁止法（平成 25 年（2013 年））を制定して性的指向の自由を制限する姿勢を鮮明にした。これに対し、日本は、同性愛者に対する明白な差別規定の歴史がなかったにもかかわらず、性的指向の権利保障に向けた取り組みは進んでいない。婚姻の性中立化に向けた議論も盛り上がっていない。性的指向の権利保障に向けた今回のシンポジウムでは、国際的動向や比較検討を踏まえて、日本でいかなる法制度の確立が可能であるのかを論じ、また、文化や社会に残る差別の淵源を明らかにしてセクシュアリティの自由を確立するための方途を展望したい。

7. 次 第：

- ◆司会 伊藤 公雄*（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）
- 13:30-13:40 趣旨説明
 三成 美保*（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学研究生院生活環境科学系教授）
- 13:40-14:10 報告1「日本における同性カップルをめぐる権利保障運動の展開」
 谷口 洋幸*（日本学術会議特任連携会員、高岡法科大学准教授）
- 14:10-14:40 報告2「日本における同性カップルの権利保障に向けた法的課題」
 二宮 周平*（日本学術会議連携会員、立命館大学法学部教授）
- 14:40-14:50 休憩 10 分
- 14:50-15:20 報告3「同性愛射程から考える日本近現代史研究」
 長 志珠絵*（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授）
- 15:20-15:50 報告4「ヨーロッパにおける同性カップルの権利保障—現状と課題」
 大山治彦（四国学院大学社会福祉学部教授）
- 15:50-16:00 コメント1「ベトナムにおける婚姻の性中立化をめぐって」
 香川 孝三（大阪女学院大学教養学部教授、元ベトナム日本公使）
- 16:00-16:10 コメント2「当事者から見た課題」
 交渉中
- 16:10-16:20 休憩 10 分
- 16:20-17:30 討論 70 分
- 17:30 閉会

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 30)

公開シンポジウム「大型レーザーによる高エネルギー密度科学研究の新展開」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会
2. 共 催：大阪大学
3. 後 援：IFE フォーラム、プラズマ・核融合学会、レーザー学会、日本原子力学会、日本物理学会、応用物理学会、日本天文学会（全て予定）
4. 日 時：平成 27 年 9 月 28 日（月）8:00～17:30
5. 場 所：米国ローレンスリバモア国立研究所
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

大型レーザーによる高エネルギー密度科学研究は、米国の超大型レーザー NIF (National Ignition Facility) や我が国の世界最高エネルギーの超高強度レーザー LFEX (Laser for Fusion Experiment) が本格稼働し、ヨーロッパの大型レーザープロジェクト：LMJ (Laser Mega Joule) や ELI (Extreme Light Infrastructure) の進捗で、新局面を迎えている。エネルギー開発では、米国において国立点火施設 NIF (National Ignition Facility) により人類初の制御された核融合点火の実現が見込まれるとともに、我が国では、LFEX による先端レーザー核融合や大規模相対論プラズマの研究が進んでいる。これらの動向から、実現まで長い道のりがあるとされていたレーザー核融合が身近なものとなりつつ有り、エネルギー開発とレーザー科学に大きな変革がもたらされると思われる。我が国が想定される変化に適切に対応するため、本シンポジウムにおいて核融合エネルギー開発と高エネルギー密度科学研究の進め方や研究協力につき、日米の有識者が意見交換を行う。

8. 次 第：

8:00 開会挨拶

山地 憲治*（日本学術会議連携会員、地球環境産業技術研究機構
理事・研究所長）

挨拶

久間 和生（総合科学技術・イノベーション会議議員）
米国側より 2 名（調整中）

8:40 日本におけるレーザー核融合研究（仮題）

疇地 宏*（日本学術会議連携会員、大阪大学レーザーエネルギー学研究センター長・教授）

9：10 国立点火施設におけるレーザー核融合研究（仮題）

John Edwards（ローレンスリバモア国立研究所慣性核融合・高エネルギー密度科学研究部門長）

9：40－9：55 （ 休憩 ）

9：55 超新星爆発による核合成（仮題）

野本 憲一（東京大学数物連携宇宙研究機構特任教授）（調整中）

10：25 高強度レーザーによる宇宙物理研究（仮題）

Robert Rosner（シカゴ大学特別教授）

10：55 Coherent Photon Technology -from science to innovation-

湯本 潤司（東京大学大学院理学研究科教授）

11：25 レーザー加速研究の最近の成果（仮題）

Chan Joshi（カリフォルニア大学ロサンゼルス校特別教授）

11：55－13：00 （ 休憩 ）

13：00 高繰り返し大出力レーザー開発の現状と展望（仮題）

晝馬 明（浜松ホトニクス株式会社代表取締役社長）

13：30 米国におけるレーザー開発研究の現状（仮題）

Constantin Haefner（ローレンスリバモア国立研究所高繰り返しペタワットレーザー開発部門長）

14：00 SACLA の現状と展望（仮題）

石川 哲也（国立研究開発法人理化学研究所播磨研究所所長）

14：30 SLAC 国立加速器研究所における高エネルギー密度科学研究（仮題）

Mike Dunne（スタンフォード大学線形加速器センターコヒーレント光源施設所長）

15：00 SACLA における高エネルギー密度物性研究（仮題）

兒玉 了祐（大阪大学大学院工学研究科教授）

15：30－15：45 （ 休憩 ）

15：45 総合討論

（司会）三間 罔興*（日本学術会議連携会員、光産業創成大学院大学特任教授）

Jeff Wisoff（ローレンスリバモア国立研究所 国立点火施設所長）

16：15－17：30 国立点火施設（NIF）見学

17：30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 3 1)

日本学術会議九州・沖縄地区主催会議学術講演会「水素元年—新しいエネルギー社会の構築に向けて—」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議九州・沖縄地区会議

2. 日 時：平成 27 年 9 月 8 日（火）14：00～17：00

3. 場 所：九州大学伊都キャンパス 稲盛ホール

4. 次 第

司会進行：

安浦 寛人*（日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長）

（1）開会挨拶

① 向井 千秋（日本学術会議第二部会員・副会長、東京理科大学副学長）

② 久保 千春（九州大学総長）

（2）講 演

① 水素エネルギー全般の講演

佐々木 一成（九州大学大学院工学研究院教授）

② 水素エネルギーを利用した技術に関する講演

調整中（トヨタ自動車）

③ 将来的な水素エネルギーの利用に関する講演

堂免 一成（東京大学大学院工学系研究科教授）

④ その他のエネルギーに関連する講演

吉岡 齊*（日本学術会議連携会員、九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

（3）閉会挨拶

古谷野 潔*（日本学術会議第二部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学大学院歯学研究院教授）

（*印の講演者は、主催地区会議構成員）